

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2002.12) 3巻1号:87.

【学会の動向】日本DNA多型学会第11回学術集会報告

塩野 寛

学界の動向

日本DNA多型学会第11回学術集会報告

塩 野 寛*

平成14年10月17日、18日の2日間にわたって、日本DNA多型学会第11回学術集会が、旭川医科大学法医学教室の主宰（塩野 寛会長）で、旭川医科大学看護学科の講堂で開催された。当学会は1991年10月に創立され、その目的は、今日まで、ヒトおよび他の生物にみられるDNA多型の解析・応用に関する研究の進歩・発展に寄与することを目的として学会活動を継続的に行っている。生物種のゲノムの全構造を明らかにした上で、個体、種としての生命の全体像とその多様性と進化の解明を目指すものである。“生命の多様性”を生み出す分子論的基盤はゲノムにおけるDNA多型にあると言っても過言ではない。2001年にヒトゲノムの全体像が明らかにされ、今後の研究達成目的の一つとして、“ヒトゲノム配列の多様性”の解明が挙げられていることが最近のScience誌（282.628－689.1999）に掲載された。最近では、疾患研究に直結する「ポストシーケンス」研究として、遺伝子多型を利用した遺伝疫学的アプローチなどがあり、これによって疾患遺伝子を見つけ、それらを医療に応用する流れができあがりつつある。このようにDNA多型研究は遺伝医学や法医学など医学のみならず、農学、薬学、水産等を含めた幅広い生物学の観点からも今後益々その重要性が増大するものと考えられる。このような状況を反映して、現在会員は法医学・法歯学を含んだ基礎医学臨床医学のみならず、動物学、植物学、農学、獣医学など多岐分野にわたっている。また、“DNA鑑定”に利用されることから法曹界からも入会がある。本学会は毎年1回、学術集会を開催し、会

員は自由に参加発表が出来る。その際発表された論文は後日会誌「DNA多型」（年間1回発行、総頁数約300頁、現在第8巻（1999年版）まで刊行済み）に掲載され、会員には無料で会誌（定価7000円）を配布している。

さて今回の学会は第1日目に理研及び北里生命科学研究所・ゲノム情報学研究室の服部正平教授に「ヒトゲノム解読の現状と今後の課題」と題して招待講演をしていただき、会員多くに感銘を与えた。

演題は70題で2日間にわたり熱心に討論がかさねられた。

1日目終了後に地ビールにて懇親会を行い、約110名がビールをかたむけながら話に花をさかせた。参加会員数は約200名であった。

北の地で行ったわりには参加者が多く盛況であったとお誉めをいただいた。

来年は東京で科警研所長高取健彦氏のもとで開催予定である。

* 旭川医科大学 法医学講座